

KUMAMOTO

# GREEN Rotary-Club

The Weekly Bulletin

Kumamoto green rotary-club district 2720 rotary international



人類に  
奉仕する  
ロータリー

2016~  
2017年度  
テーマ

国際ロータリー

「人類に奉仕するロータリー」

R.I. 会長 ジョン・F. ジャーム

地区方針

「学ぶ・守る・育てる・未来へ向けて」

R.I. 2720 地区 ガバナー 前田真実

熊本グリーンRC

「ロータリーを育て行動しよう」

熊本グリーンRC 会長 河島一夫

■例会日：毎週月曜日 18:30~19:30  
■例会場：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル  
TEL096-326-3311

■創立：平成元年2月22日 ■会長：河島一夫 ■幹事：葉高源 ■会報担当：長野義文  
■事務所：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル内  
TEL096-354-4521 FAX096-354-4053 E-mail:kgrc@serc2720.org

国際ロータリー  
第2720地区

## 熊本グリーンロータリークラブ週報

【2017年3月27日】

第1252回

2016-2017年度 第32回

【例会】

1. 開会・点鐘 18:30

2. 食事と交歓

「我等の生業」(ロータリーソング)

来訪者紹介 (河島一夫 会長)

卓話者

くまもと漱石倶楽部 会長 和田正隆 氏

友情の握手

会長スピーチ (河島一夫 会長)

昨日の25日に地区大会が大分で行われました。私は、熊本ロータリークラブが用意したマイクロバスで午前7時発で熊本クラブの方々と一緒に行きました。高速道路を走って始まる丁度10時に着きました。10時からは会長幹事会ですので、熊本クラブの人も会長幹事だけがバスから降りて、他の会員は大分県立美術館に行かれました。会長幹事会は、1時間ほどで終わり、昼食の時間となり、隣接した部屋におでんやらおにぎりやらサンドイッチなどを自由に取って食べるようになっていました。1時から地区大会が始まり、私どものクラブからは大友会員、中島会員、河野会員の4名でした。登録は伊津野会員と病気で来られなかった葉会員でした。基調講演はジャパネット高田の元社長の高田さんでした。高田さんは平戸で親の仕事の

写真屋を継がれて、当初は年商3000万円程だったそうです。現在は1800億円、一代でたいしたもの。40歳からラジオで通信販売を始められたそうで、それが10年続きテレビへ進出されたとのことでした。薄型テレビの普及の時には1日で5000万円売られたこともあったとのことでした。5時に大会が終わり、会場をホテルに移して懇親会が6時半から行われました。約420名程の参加でした。8時半に終わり、帰りは城東ロータリークラブのバスで帰りました。ホテルキャッスルに11時半でした。それで、今後の地区研修会や大会にはもう少し多くの会員の参加をお願いしたいものです。来年度は大友会員がガバナー補佐を務められます。クラブ全員で応援しないとなりません。以上、今日の会長の時間を終わります。

幹事報告 (山下佳介 会員)

■ 報告事項

①「観桜例会」のご案内

次週の例会は「観桜例会」として、日本料理「おく村」に場所を移して例会を行います。会場近くの古城堀端の桜も満開の時期と思います。何卒多数のご参加をお待ち致しております。

■ 報告事項(その他のロータリー関係)

①「ロータリー家族清掃活動及びポリオプラス募金活動」のお知らせのご案内

### 卓話予定

- 4/3 「観桜例会」18:30~ (於：日本料理「おく村」)
- 4/10 地区研修・協議会報告
- 4/17 石浦 順一 会員卓話
- 4/24 中島三千代 会員卓話
- 5/1 定款第6条第1節に基づき、例会取り止め (休会)

【熊本グリーンRC ホームページアドレス】 <http://www.kg-rc.com/>



### 3. 例会プログラム

紹介者： 仙波 洋八 会員

卓話者： くまもと漱石倶楽部 会長 和田正隆 氏  
「漱石をめぐる女性たち」



### 4. 閉会・点鐘

#### 熊本震災被災者支援プロジェクト（熊本平成RC）

2017年03月03日 熊本平成RC 渡辺 良晴

梅の花もちらちら咲き始めた2月25日、春風に吹かれて熊本平成RCの会員は、益城町の広安愛児園に集合しました。今日は熊本・大分地震被災者義援金を活用したプロジェクト「刈払機贈呈式」です。

熊本平成RCは、毎年夏の終わりに2000坪を超える広安愛児園の敷地の一部ではあるが、会員みんな汗をかきながら草刈を行い子供たちにバーベキューをふるまって楽しいひと時を過ごすのです。

しかし、どうしても広大な敷地に対して機械が足りない。そんな悩みの中、社会奉仕委員長がこのプロジェクトを提案。承認が下り、いざ式をと言っていると、職業奉仕委員長より職場訪問も兼ねては？という意見。

園長先生に掛け合いお願いすると、快い返事。子供たちも楽しみにしますとのこと。そんないきさつで本日を迎えました。

食堂を会場に提供していただきましたが、部屋に入ってビックリ！なんと子供たちが「横断幕」を手製で作ってくれてました。手形をカラフルに押しつけて見事なものです。みんな感動で「してやられた」の思いです。

まず会長の挨拶で始まり、社会奉仕委員長・職業奉仕委員長と続き、贈呈式は滞りなく終了。

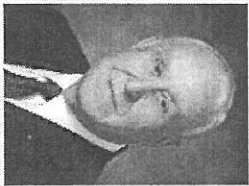
その後、園長先生や指導員の方のお話が続きます。なかなか聞けない施設の内容や、子供たちの環境、またこれからの悩み等々、会員みんな真剣に勉強しておりました。

こちらからの一方的な奉仕だけではなく相手方の希望や実態を少しでも聞いてこれからの活動の役に立てればと思いつつ終了しました。

帰り際に子供が「バーベキューはしないの？」と聞いてきましたので「秋には必ずやるからいい子で待ってろよ」と頭をなでなででした。秋も頑張らねばと気持ちを新たにして愛児園をあとにしました。



## 会長メッセージ



ジョン・F・ジヤーム

1989年、ロータリー規定審議会(COI)は、完全に男性だけの組織であったロータリーに終わりを告げました。

今日、25万人以上の女性会員が活動し、ロータリーはこれまで以上に強固な組織となっています。世界のほぼすべての国の男性女性各35,000以上のクラブに所属し、地域社会で奉仕しています。クラブでは、多様な経歴、年齢、文化、職業の男女の入会を必要としています。国際的な観点から見ると、世界すべての国、都市、地域にクラブが必要で、クラブがより良く地域社会を反映すれば、私たちの奉仕活動をより充実させることができます。多様性は、私たちの強みです。

なぜ、当時ロータリーに女性会員を入会させることに強く反発があったのか、今日の私たちに想像することも困難です。今振り返ってみると、単に、変化に抵抗があったのだと思います。ロータリアンは当時のロータリーが一番だと思っていたため、別の角度から見ることでできなかつたのだでしょう。

当時も今も、私たちはロータリーを選びます。クラブで築く友情やつながり、人類へ奉仕するための力をロータリーが私たちに与えてくれることを嬉しく感じているのです。私たち自身の人生、そして、世界にとって、ロータリーは語り知れない価値があると信じています。ロータリーが引き続き成長していくためには、世界の多様性、変化する奉仕のニーズを捉えながら、私たちが奉仕する世界をこれまでに馴染なく受け止める必要があります。

今日のロータリアンは、40年前のデュアル・ロータリークラブに感謝しななければなりません。彼らの、決意、忍耐、揺るぎない親善の心があつたからこそ、現在の「人類に奉仕するロータリー」があるのです。

## 補助金

# ロータリーとUSAIDが ガーナにきれいな水を提供

ガーナは、2800万人の人口を持つ西アフリカのゴールドコーストにある国で、かつては金産出国として有名でした。今日、世界有数のカカオ産出国であり、麻油、タイヤモンブも産出しています。貴重な資源がある国でも、きれいな水ほど貴重なものはなく、「液体の金」とも言われています。

ロータリーが協力し、ガーナのような開発途上国で、きれいな水と衛生施設を提供することで、継続的に状況の改善に努めています。

3月22日は「世界の水の日」です。この機会に、国際ロータリーとUSAID

の提携による「国際H2O協力(International H2O Collaboration)

2009年以来、USAID(米国際開発庁)が、極度の貧困に対処するため海外支援を行う「世界最大の政府組織」

の一環として実施されている多くの水プロジェクトについて、ガーナでの水問題への対処について、また、他国での応用について学んでみてはいかがでしょうか。

「きれいな水と、衛生施設を提供するだけではありません。人びとに衛生教育をし、継続して衛生状態を保てるように支援しています。例えば、新しい資源の使い方、継続して使えるようにするには、どうすればよいか分かるようにします」と話すのは、USAIDとのパートナーシップを担当する国際ロータリーのエリカ・ズイン職員です。

2015~18年の間、このパートナーシップを通じて、ガーナ、マダガスカル、ウガンダの各国に400万ドルが投じられます。ロータリーは、国あたり200万ドルを提供しており、ロータリー個人、クラブ、地区から、国あたり20万ドルの寄付を集めることを目標としています。

ガーナでの活動は続きます。2018年までに、910の村に新しい井戸を作る予定です。これにより、飲料水が確保でき、病気を減らし、住民の生活の質を向上できます。

ガーナでのプロジェクトは、このほかに、学校や診療所に122のトイレを設置し、農村地域に住む数千の人びとに衛生施設を提供します。

きれいな水と衛生施設を提供することは、プロジェクトのほんの一部です。グローバルコミュニケーション(USAIDと提携して地元の前負業者を紹介する国際的非営利団体)と地元のロータリアンが協力し、どうすれば衛生を管理・維持できるかという広範囲な教育を各村で行います。ロータリアンはさらに、地方自治体や各国政府と協力し、水と衛生環境を



きれいな水が貴重なリソースであるガーナ。

改善するための方針整備にも力を注いでいきます。

クラブや地区でガーナ、マダガスカル、ウガンダでの水・衛生プロジェクトを提唱、またはプロジェクトに寄付することを希望する場合には、rotaryusaid@rotary.org へご連絡ください。

